

# SEKIJUKU project

連携・連続講演授業

## 「夕塾」報告

富山大学芸術文化学部教授 伊藤 裕夫



これからの大学は、単に教育・研究の場としてだけでなく、様々な形で地域社会と連携し、貢献することが求められてきている。富山大学芸術文化学部では、平成18年12月から、北日本新聞社と共催で「夕塾（せきじゅく）」をスタートさせたが、これもこうした試みの一つである。

夕塾は、基本的には学生たちが高岡市や富山県の文化や産業について、実際に関わってこられた方々のお話を通して学ぶ場を、広く市民の方々にも公開し、学生も市民も一緒になって皆でこれからの地域社会のあり方について考えていこうという特別授業である。学生には、普段の授業では受けられない、現実の社会や地域の課題に触れる機会を設け、芸術文化学部で学ぶことの意義をつかんでもらうとともに、これらを通して、大学を地域の文化拠点として、地域づくりに貢献していくための「出会いの場」を形成していくことを目指している。

以下、平成18年度に開催された6回の夕塾の概要を報告する。

### 第1回夕塾

◆日時：平成18年12月15日（金） 午後6時半～8時半

◆会場：高岡キャンパス コミュニケーションルーム（以下、会場は同じなので略す）

（会場としては、当初は講堂や大会議室も検討されたが、夕塾の趣旨が単なる講演会や公開講座ではなく、講師と参加者が視線を同じくして一緒になって地域のことを考えるというものであることから、世界の著名なデザイナーの椅子や学生の作品が置いてあって、普段から教員や学生のミーティングにも使われているコミュニケーションルームで行うことにした）

◆テーマ：「（芸術系）大学と地域 ～いかに大学を地域の文化拠点にしていくか～」

◆ゲスト講師：平野拓夫氏（金沢美術工芸大学学長（当時））

（ホスト：前田一樹芸術文化学部長）

◆参加者：橘高岡市市長をはじめ、市民約40名、学生約20名

◆概要：平野氏は、学生時代に学んだことから高岡市の工芸デザインとの関わり、これからの地域産業のあり方など、40分ほどお話をされた後、30～40分にわたりの質疑・意見交換が行われ、さらにその後も10数名の学生と30分以上、いろいろ有意義な学生生活のおくり方などについて懇談された。



伊藤裕夫



平野拓夫氏



佐藤孝志氏



若林忠嗣氏

## 第2回夕塾

◆日時：平成19年1月12日（金） 午後6時半～8時

◆テーマ：「伝統文化と地域 ～高岡の昨日・今日・明日～」

◆ゲスト講師：佐藤孝志氏（前高岡市長、高岡法科大学大学院客員教授）

（ホスト：金子隆亮夕塾プロデューサー）

◆参加者：まちづくり関係者を始めとする市民約60名、学生約20名

◆概要：佐藤氏は、まず市長在任中にいつも心がけたこととして、地方都市の良い点と東京など大都市の良い点の両方を相補うこと、及び魅力ある都市の基盤として歴史的・文化的資産を活用していくことを述べられた。そして、特に文化活動への参加こそが人々が幸福を感じる原点であるという観点から、高岡における伝統文化を活かしたまちづくり施策について、万葉のまちづくり、工芸のまちづくり、歴史的・文化的資産を活かしたまちづくり、そして祭りやイベントという4つの枠組みで、実例を挙げて解説された。

## 第3回夕塾

◆日時：平成19年1月26日（金） 午後6時半～8時

◆テーマ：「芸術文化と地域 ～こしのくに音楽祭と地域プロジェクト～」

◆ゲスト講師：若林忠嗣氏（こしのくに音楽祭実行委員会事務局次長）

（ホスト：伊藤裕夫芸術文化学部教授）

◆参加者：市民約30名、学生約10名

◆概要：「こしのくに音楽祭」は、10数年前富山で亡くなった世界的なヴァイオリニストであったシモン・ゴールドベルグを記念して、市民が中心となって企画・実施された音楽祭で、特に地域の様々な文化的可能性を掘り起こす「地域プロジェクト」として取り組まれた。若林氏からは、こうした音楽祭の実行における資金の問題、人材の問題、行政との関わりにおける苦労話を軸に、「知的好奇心を忘れず、何事も自分から進んでいく」という前向きな姿勢の重要性が語られた。







山田節子氏



谷川章氏

#### 第4回夕塾

◆日時：平成19年2月9日（金） 午後6時半～8時

◆テーマ：「生活文化と地域 ～ライフスタイルをプロデュースする～」

◆ゲスト講師：山田節子氏（ライフコーディネーター、東京生活研究所ディレクター）

（ホスト：小松研治芸術文化学部教授）

◆参加者：工芸デザイン関係者を含む市民約40名、学生約10名

◆概要：山田氏は、「作ること」「売ること」「使うこと」を分断せず、トータルなこととして発想する＜生き方＞のプロデュースという観点から、これまでされてきたいくつかの仕事をスライドで紹介しつつ話された。特に、伝統工芸の持つ美しさをどう現代、そして未来に活かしていくか、若い世代の自由なアイデアに大きな可能性があると指摘された。



#### 第5回夕塾

◆日時：平成19年3月2日（金） 午後6時半～8時

◆テーマ：「産業文化と地域 ～世界最高品質に挑戦する～」

◆ゲスト講師：谷川章氏（ワシマイヤー株式会社専務取締役）

（ホスト：杉野格芸術文化学部教授）

◆参加者：市民約40名、学生約5名

◆概要：F1用鍛造ホイールなど、世界最高品質のホイールを製造している地元企業ワシマイヤーの歩みと、こうした技術を獲得するに至までの苦労をお聞きした。特に自動車メーカーのデザイナーと技術者の間にあって、どう注文に応じていくか、プロの仕事の厳しさについて学ぶところが大きかった。



木村 聡氏



## 第6回夕塾

◆日時：平成19年3月21日（水・祝日）午後2時～4時

◆総括プレゼンテーション「開町400年、大学を地域の文化拠点に」

大学の取り組み報告：

①高岡の伝統工芸とジャパンプランド

前田 一樹（芸術文化学部長）

②国際観光に貢献する人材育成

渡邊 康洋（芸術文化学部教授）

③芸術文化と地域活性化

伊藤 裕夫（芸術文化学部教授）

コーディネーター

木村 聡氏（北日本新聞社編集部長）

◆参加者：市民約40名、学生約10名

◆概要：平成18年度夕塾の最終回として、各回のゲスト講師からの問題提起を踏まえ、芸術文化学部の3名の教員から、大学のこれまでの取り組みや今後のビジョンを提示し、これからの地域社会のあり方と大学の役割、大学と地域との連携について意見交換を行った

## 運営体制

◆塾長：前田一樹（芸術文化学部長）

◆総括プロデューサー：金子隆亮（K2クリエイション）

◆企画運営委員：山口新輔（北日本新聞高岡支社長）、木村聡（北日本新聞高岡支社編集部長）、藤沢 大（高岡ケーブルネットワーク）、近藤 潔、貴志雅樹、伊藤裕夫

◆協力：河原雅典、島添貴美子

なお、夕塾は平成19年度は、「まち再考 学ぶ・探す・つくる」という総合テーマのもと、ほぼ月1回のペースで開催されることになっている。

夕塾のレポート記事は下記のホームページに掲載  
<http://www.geibun.jp/artabe/specials/sekijyuku.php>

